



「ねたきり老人の介助（自立のための手だすけ）」

松 村 秩 著

老人保健法が成立をみた時に松村秩氏による“ねたきり老人の介助—自立のための手だすけ”が出版された事は実に良いタイミングである。ねたきりを作らぬ事が最優先であるが、ねたきり老人は常に自立に向けての努力が望ましいし、その意欲が湧き出るように周囲の人々、特に家族も適切な働きかけを行わなければならない。

第一章介助介護のあり方で本そのものの哲学が明確にうち出されている。すなわち正しい介護とは老人が人間らしく生きてゆくための介護でなければならぬと記されている。“動き”は生きる事の基本、さらに“動き”のメカニズム、“動きと重力への適応”、“寝たきり”のメカニズム、“寝たきりの予防”と項目が続くが自立への動きがはじめてから強調されている。

第二章自立のための介助法では具体的に豊富な写真、イラストを使ってねがえり、移動、起きあがり、立ちあがりの方法が説明されている。写真が大きいので家庭で看護をして居られる御家族達に大変親切な内容であるとの印象を強く受ける。**第三章日常生活の自立のために**

は寝たきりを防ぐための3つの器具としてベッド、便器、椅子（車椅子）があげられている。やはり家庭看護の際の要点がわかりやすくまとめている。第四章誰にもできる機能訓練、第五章腰痛予防体操（介護をする人のための）もわかりやすいが、この本の価値は始めの3章にある。寝たきり予備群の御老人を家庭で介護して居られる方々にはまたとない指導書であり、現場の保健婦、訪問ナースさらには病院勤務の方々にとっても大変よみやすい参考書である。著者の松村秩氏は日本を代表する理学療法士であり、理学療法士の社会的評価、品位、学術の向上に努力して来られた方である。評者の在養育院附属病院5年間を通して存じあげている著者の円満で思いやりのある御人柄がそのままにじみ出ている本であり、この本が訪問指導、地域医療の向上などに果たす今後の貢献にははかり知れぬものがある。

（B5 頁118 写真243 ￥1,250 千300 医歯薬出版 1982）

（ペインクリニック 高島平整形外科 医師 荻島 秀男）